

## 患者と家族

### 寄り添い前へ

#### 乳がん講座 清水アナ語る

乳がん患者を支える家族の在り方を考

える市民公開講座「大切な人の『想い』

とともに……」(読売新聞和歌山支局な

ど後援)が橋本市高野口町の市産業文化

会館で開かれた。妻を乳がんで亡くした

(山田博之)

読売テレビのアナウンサー、清水健さん

が講演し、「皆さんは一人ではない。闘

病中の家族と一緒に泣き、希望に向かっ

て一緒に笑ってほしい」と呼びかけた。

医療法人南労会・紀和病院

の診療科「紀和ブレスト(乳

腺)センター」や伊都医師会

などで行う実行委員会の主

催。

29日に開かれた講座には患

ろうそくに火をともし清  
水さん(中央)ら(29日  
夜、九度山町の慈尊院で)



した。

著書「112日間のママ」

でも知られる清水さんは、妻

の奈緒さんが2014年に妊

娠した後、乳がんが見つかり、

長男を出産後の昨年2月に亡

くなった経緯を説明。治療中

には出産を断念するかどうか

の選択を迫られ、「3人で生

きよう」と出産を決断したこ

とを振り返った。

また、「僕は何度も心が折

れたが、妻は僕の前ではいつ

も笑顔だった。もっと一緒に

泣いてあげれば良かった」「亡

くなった時には悲しくて、悔

しくて、妻のためにしてあげ

### 亡き妻へ思い「希望胸に笑って」

これに先立ち、梅村定司・

同センター長も講演し、「乳

がんにならないため、早めに

検診を受けてほしい」と助言

した。

夕方からは、清水さんら約

300人が世界遺産・慈尊院

(九度山町)の境内で乳がん

撲滅キャンペーンのシンボル

「ピンクリボン」の形に並べ

られた約300本のろうそくに

火をともした。また、多宝

塔をピンク色にライトアップ

し、物故者を追悼した。